

令和 6 年 9 月 4 日
(2024 年)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	財政総務常任委員会
視察委員	委員長 西岡友和 副委員長 江口礼四郎 委員 山根建人、井上真佐美、塩見みゆき、乾 詮、高村将敏
視察期間	令和 6 年 8 月 21 日（水）から 8 月 22 日（木）まで 2 日間
視察内容等	1 視察先及び調査事項 1 日目 市川市 新庁舎について 2 日目 静岡市 投票率向上対策の取組について 2 調査の概要及び意見（市川市） （1）市川市の主な事業概要 ア 新庁舎整備の経緯 （ア）平成 23 年 庁内に「庁舎整備庁内検討委員会」を設置 （イ）平成 24 年 「庁舎整備基本構想策定委員会」を設置 （ウ）平成 25 年 無作為抽出の市民アンケートやパブリックコメントによる意見聴取を実施するとともに、設計業者を選定 （エ）平成 26 年から平成 28 年まで市民ワークショップを計 13 回開催するなど、市民と一体となった新庁舎整備を進め、平成 29 年に新第 2 庁舎、令和 2 年に新第 1 庁舎がそれぞれ完成 （2）主な質疑内容 担当者から説明の後、委員から次の質問があった。 ア 市民活動支援スペースの利用形態はどのようなものか イ 自然エネルギーの利活用の詳細について ウ 市民からの意見集約の概要について エ 地方債や国庫補助金などの財源の確保策 オ 庁舎建替えの手法、仮設庁舎の民間の土地利用の検討について カ 市長や職員が代わることへの課題

	(3) 委員会としての所感 ア 令和2年に新第1庁舎が完成するまで約10年の期間を要しているが、仮設庁舎の建設など、市民に負担をかけない努力が随所に見られた。 3 調査の概要及び意見（静岡市） (1) 静岡市の主な事業概要 ア 投票率向上対策の策定経緯等 (ア) 年々低下を続ける静岡市長選挙、市議会議員選挙の投票率を向上させるため、まずは現状の投票率等の分析を行った。 (イ) 分析の結果、特に10代、20代の若年層の投票率の低さが顕著となった。 (ウ) 学識経験者などを構成員とした「どうする投票率研究会」を設立し、令和7年3月執行予定の市議会議員選挙において、若年層をターゲットに投票率向上対策を進めていくことになった。 (エ) 市議選 GOGO キャンペーンとして、有権者の関心を高める情報発信、投票しやすい環境づくり、主権者教育の充実の視点で、投票率向上対策取組を実施するとともに、市議会議員選挙後に、その取組の効果検証を予定している。 (2) 主な質疑内容 担当者から説明の後、委員から次の質問があった。 ア どうする投票率研究会の協議事項の詳細 イ 期日前投票促進の取組内容 ウ 若者の投票行動促進の取組の展望 エ 住民票を異動させていない学生への対応策 オ 投票結果の市民への公開に係る取組 カ 投票率を向上させる取組は誰が主体的に行うべきか (3) 委員会としての所感 ア 投票率向上は選挙管理委員会がその結果にまで責任を負うべきであるかは難しい問題である。 イ 主権者教育は行政が行うべきか、または議会が主導すべきかは重要な課題である。
--	--